

児遊の杜だより

2010年2月17日 第12号

仙台市適応指導センター

電話 773-4150

E-mail jiyu@sendai-c.ed.jp

雪どあそべんちゃーin大倉2010に 142名参加

去る2月10日(木)に大倉で開催しました「雪どあそべんちゃー」(右写真)に、小中学生等62名、保護者23名、ハートフルサポーター(教職員ボランティア)等57名の合計142名が参加し、そり遊び、スノーモービルなどを楽しみました。笑顔で遊びに夢中になっている不登校の子供たちの姿を見ますと、何かに夢中になるということの大切さを感じた一日でした。休日にご協力をいただきましたハートフルサポーターの方々に深く感謝申し上げます。



雪遊びをする
子供たち



積極的な小中学校の交流と連携を

小学校6年生が卒業し、中学校に進学するに当たりまして、まもなく小中の連絡会が行われる時期を迎えます。不登校の中1ギャップという問題が挙げられておりますが、現在の不登校状態の報告と未然防止を踏まえた情報交換に努めていただきたいと思います。

私立の一般入試等で12名が合格

過日行われました私立の一般入試で、中学3年生の通級生12名が合格しました。各学校での心温まる指導・支援等に感謝申し上げます。

現在、中学3年の通級生は60名ほどおりますが、1月の推薦入試等の合格者を含めると、34名の通級生が高校への進学を決めています。3月4日(木)に行われる公立高等学校の学力検査に向けて努力を続けている通級生もおりますので、今後ともどうぞよろしく申し上げます。

お知らせ

- 「児遊の杜」「杜のひろば」の中学3年生の最終通級日は、2月26日(金)となります。
- 年度末に当たりまして、不登校に関する基本的な考え方(裏面参照)について、不登校対策担当者を中心に研修を深めていただくことを切に望みます。
- 先にお知らせしましたように、2月19日(金)の午前10時30分より教育センターにて「七つ杜の会」を開催します。たくさんの方々に参加の連絡をいただきましたことに感謝申し上げます。

不登校に対する基本的な考え方

① 将来の社会的自立に向けた支援の視点

不登校の解決の目標は、児童生徒の将来的な社会的自立に向けて支援することであること。したがって、不登校を「心の問題」としてのみとらえるのではなく、「進路の問題」としてとらえ、本人の進路形成に資するような指導・相談や学習支援・情報提供等の対応をする必要があること。

② 連携ネットワークによる支援

学校、家庭、地域が連携協力し、不登校の児童生徒がどのような状態にあり、どのような支援を必要としているのか正しく見極め（「アセスメント」）を行い、適切な機関による支援と多様な学習の機会を児童生徒に提供することが重要であること。その際には、公的機関のみならず、民間施設やNPO等と積極的に連携し、相互に協力・補完し合うことの意義が大きいこと。

③ 将来の社会的自立のための学校教育の意義・役割

義務教育段階の学校は、自ら学び自ら考える力なども含めた「確かな学力」や基本的な生活習慣、規範意識、集団における社会性等、社会の構成員として必要な資質や能力等をそれぞれの発達段階に応じて育成する機能と責務を有しており、関係者はすべての児童生徒が学校に楽しく通うことができるよう、学校教育の一層の充実のための取組を展開していくことがまずもって重要であること。

④ 働きかけることやかかわりをもつことの重要性

児童生徒の立ち直る力を信じることは重要であるが、児童生徒の状況を理解しようとすることもなく、あるいは必要としている支援を行おうとすることもなく、ただ待つだけでは、状況の改善にならないという認識が必要であること。

⑤ 保護者の役割と家庭への支援

保護者を支援し、不登校となった子どもへの対応に関してその保護者が役割を適切に果たせるよう、時機を失することなく児童生徒本人のみならず家庭への適切な働きかけや支援を行うなど、学校と家庭、関係機関の連携を図ることが不可欠であること。

「今後の不登校への対応の在り方について」（報告）平成15年3月 不登校問題に関する調査研究協力者会議より